

日本語会話データに見られる対比談話標識間のシフト現象

陳相州（名古屋大学大学院生）

sousyuu@hotmail.com

1. 考察範囲と研究目的

国立国語研究所が1955年に実施した調査の結果によると、日常会話でよく使用される接続詞は「それで」(そいで、そんで、で)、「でも」(だけど、けれども、しかし、ですけど、が)、「だから」(ですから)、「それから」(せえから、そいから)、「じゃ」(それじゃ、それでは、では)の順であり、「でも」、「だけど」、「しかし」などの対比談話標識¹は日常会話で「それで」に続き、よく使用されるマーカーであることがわかった。本研究の考察対象は対比談話標識の中でもっともよく使用される「でも」、「だけど」、「しかし」に絞ることとする。実際の会話では例1のように、「でも」、「だけど」、「しかし」などの対比談話標識を交互的に使用することはよく観察される現象である。本研究の目的は例1のような標識間交互使用の現象を解明するところにある。

例1 IF12: でも千葉なのね。[]うちの母も千葉だから。

IF11: 嘘どこ？

IF12: だから松戸。

IF11: あそっか。

IF12: だけど、母も移動してんだよ。

2. 分析資料

本稿は日本語対比談話標識の日常使用実態を明らかにするため、自然会話を大量に収録している『BTSによる多言語話し言葉コーパス-日本語会話1』を使用する。また、会話参加者の親疎関係と力関係の2変数を考慮し、今回分析したのは友人同士の雑談、初対面同士の雑談と論文指導の3場面(計42組、約840分)である。

友人同士の雑談、初対面同士の雑談と論文指導の異なる場面で、日本語対比談話標識の使用状況は同じか否かを明らかにするため、各場面の全会話文数をもとに「でも」、「だけど」、「しかし」の使用頻度と割合を調べた。表1はその結果である。

表1 3場面の会話における対比談話標識の使用頻度と割合

| 場面 種類 | 友人同士 | | 初対面 | | 論文指導 | |
|----------|------|-------|-----|-------|------|-------|
| | 頻度 | 割合 | 頻度 | 割合 | 頻度 | 割合 |
| でも | 592 | 4.74% | 272 | 4.42% | 26 | 2.34% |
| だけど | 25 | 0.20% | 3 | 0.05% | 0 | 0.00% |
| しかし | 2 | 0.02% | 0 | 0.00% | 4 | 0.36% |

¹ Fraser (1996)は対比談話標識 (contrastive discourse markers) について「signaling that the utterance following is either a denial or a contrast of some proposition associated with the preceding discourse (後続する発話が先行発話に関連する何らかの命題に対する否定や対比関係にあることを示すものである) (187頁)」と定義している。

表1に見られるように、「だけど」と「しかし」は低い割合で使用される一方、「でも」は各場面の親疎関係と力関係の設定が異なるにもかかわらず一番よく使用される対比談話標識である。談話標識「でも」は日常会話でもっとも頻繁に用いられる対比談話標識であり、対比談話標識のプロトタイプとも言えよう。

3. 談話標識「だけど」へのシフト

形式上の特徴

友人同士の雑談、初対面同士の雑談と論文指導という3つの場面では、「だけど」へのシフトが現れやすいのは友人同士の場面であることが表1からわかる。談話標識「だけど」の前後に隣接した発話に、例2と例3のように「そうそう」、「～だよね」などの共感を得た発話形式が現れていることが特徴である。「だけど」が導く発話内容は遺憾や不満などの心的態度を表すものもよく見られる。

例2 F20: /少し間/「人名1」の紹介みたいな感じだった。

F19: そうそうそうそう。

F20: だけどさ、なんか、前さほら、私、中国人の知り合いの人とことか(うんうんうんうん)行ったりしたからさ、なんかも、「人名2」君と「人名1」と一、「人名3」と一、

F19: <そうそうそうそう><{>。

例3 F05: やっぱ、それくらいあった方がいいよね(うん)、<できるんだったら><{>。

F06: <だか、2回><{>}やりたいてみんな言ってるよ。

F05: そう<だよね><{>。

F06: <うーん><{>。 だけどねー、できないんだよねー。

F05: わたし、なんか、もっと、1週間とか2週間とか<ずーっとやるのか>と思った<{>。

F06: <あ、行くのはねー、2週間とか行くの><{>。

ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの手段

「だけど」の出現が「そうそう」や「～だよね」などの共感を得た発話形式に伴いやすいことからすると、会話進行の途中に「でも」を基盤とする対比談話標識の使用を「だけど」へシフトすることはある種のポジティブ・ポライトネス・ストラテジーであろう。つまり、会話相手との共通点を見つけ、聞き手を話し手が属する縄張りの中に引っ張り込むことにより、会話相手との一体感と親しみを示すストラテジーである。

4. 談話標識「しかし」へのシフト

フォーマルな場面での使用

表1に示されたとおり、3場面の会話データの中で「しかし」の使用割合が一番高いのは論文指導の場面である。談話標識「しかし」の使用はフォーマルな場面で真剣な話に繋ぐ傾向があると言えよう。下の例の「しかし」はJTM06(教師)がJSF07(学生)の研究についてコメントする会話で現れるものである。

例 4 JTM06: <=>で{>}、それは、あの、もっと古く、あの芥川竜之介『神々の微笑』という作品があって、その日本というのは、結局何でも取り込んでしまう(はい)、ん、仏教も、え、儒教も、キリスト教も、あらゆる科学技術も取り込んでしまう=。
=しかし、日本に取り込まれた瞬間、それすべて、日本のものに、こう作り変えられて(はい)しまう、そういった、あのことを、その『神々の微笑』という短編の中で、あの、登場人物に言わせていますよね。

友人同士雑談場面での使用

「しかし」は通常真面目な話で用いられるが、これを親しい間柄での会話で用いることにより、違和感から生じる面白味のある言い方になることも友人同士の雑談の場面で観察された。

例 5 F16: 雨天時はさー、時間遅らそう。[] しかしげ、遅刻厳禁ね<笑いながら>。

F17: え。

5. 対比談話標識の代替としての「ただ」の使用

「ただ」の使用状況

論文指導の場面では対比談話標識の使用割合がもっとも低いことは表 1 から窺われる。対比談話標識の低い使用割合の原因を探求した結果、論文指導の場面では対比談話標識のかわりに「ただ」が多用されることが分かった。「ただ」の使用は表 2 に示したように、初対面と論文指導の場面が多く、特に論文指導の場面での使用割合は 3 場面で最も高いことがわかる。

表 2 3 場面の会話における「ただ」の使用頻度と割合

| 場面 種類 | 友人同士 | | 初対面 | | 論文指導 | |
|----------|------|-------|-----|-------|------|-------|
| | 頻度 | 割合 | 頻度 | 割合 | 頻度 | 割合 |
| ただ | 5 | 0.04% | 9 | 0.15% | 17 | 1.53% |

ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー

「ただ」のようないわゆる補足の接続詞は、先行部分の内容に対して後続部分でその成立条件、制限や相關情報などを付け加えるものであるため、発話の重点は先行発話にあると考えられる。川越(2003)の説明によると、会話レベルにおいて「ただ」の使用は相手に押し付けがましく聞こえないようにするためにわざと重点を置いていないような「見せかけの重点はずし」の機能をもち、話し手が自分の発話に関して<聞き手配慮>をする必要がありと判断するときに使われる傾向がある(84-85頁)。つまり、情報追加の機能として、「ただ」の使用はネガティブ・ポライトネス・ストラテジー(negative politeness strategy)に属し、相手の感情を配慮して自分の発話を和らげる効果があると考えてもいいであろう。

「ただ」の用法

・「自分の発話に対する補足」

「でも」の場合は補足内容を強調する響きがあるのに対し、「ただ」の場合は「見せか

けの重点はずし」の特質があるため、補足内容である自分の意見を控えめに主張する効果があると考えられる。

例 6 JSM01 : あの、これ自体はもう元からある、ポーランド語の元からある言葉なんですけど。

JTM07 : はい。

JSM01 : だから、その『Dunaj』の論文で、それがちょうど扱われてて、『Dunaj』はこの"kobiety biznesu"という例は出してなかったんですけど、この下にあげた"biznesmenka、biznes woman、kobieta interesu"という 3、3 つのかたちがあるというふうに挙げてるんですね。

JTM07 : へ、へ、へ。

JSM01 : ただ、"kobiety in、biznesu"というのはあげてなかったんですけど。

JTM07 : なる<ほど>{<}。

・「相手の発話に対する補足」

川越 (2003) は「相手の発話の内容に対して自分の意見を言うとき、『しかし』ならはっきりと反論を示すことになるが、『ただ』なら相手の発話内容を一応賛意を示しながら、意見の相違点や問題点を控えめに主張することができる (86 頁)」と述べている。

例 7 JTM04 : <でも>{>}、そ、だからー、もちろん全部調査するのではなくて(はい)「JSF04 姓」さんのわかる範囲で見えて、あ、どうも間違いが多いんじゃないかと思えば、やっぱり、さい、再調査せざるを得ないですよ。

JSF04 : そうですね、ただ「作家 4 名」さんのものは、わたしが読んだ限りでは、ま、間違ってるかどうか分からない(ん)ということもあるんですが、(後略)

6. まとめ

本研究では日本語の対比談話標識間のシフト現象について考察を行った。その結果、会話進行中に「しかし」へのシフトは真剣な話に繋ぐ傾向があるが、「けど」の使用はポジティブ・ポライトネス・ストラテジーであり、「ただ」は対比談話標識の代替としてネガティブ・ポライトネス・ストラテジーであることが分かった。

引用文献

Fraser B. 1996. Pragmatic Markers. *Pragmatics* 6:1, 167-190.

川越 菜穂子. 2003. 「補足の接続詞「ただ」「ただし」について - <聞き手配慮>を使用条件にした分析 - 」、『人間文化学部研究年報』、5、82-101.

国立国語研究所. 1955. 『談話語の実態』東京：国立国語研究所

宇佐美 まゆみ監修. 2005. 『BTS による多言語話し言葉コーパス-日本語会話 1』東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プロジェクト「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」